

法人名 財団法人山梨県馬事振興センター

【法人の概要】

代表者名	理事長 遠藤順也（農政部長）	所管部（局）課	農政部畜産課	
所在地	北杜市小淵沢町10060-3	電話番号	0551-36-3945	
ホームページURL	http://www.nns.ne.jp/ass/baji	E-mailアドレス	baji@nns.ne.jp	
資本金（基本財産）	1,000 千円	設立年月日	昭和57年6月17日	
主 出資者	出資順位	出資者名	出資額	出資比率
	1	山梨県	400 千円	40.0 %
	2	北杜市	400 千円	40.0 %
	3	山梨県馬術連盟	200 千円	20.0 %
	4		千円	0.0 %
	5		千円	0.0 %
	6		千円	0.0 %
	7		千円	0.0 %
	8		千円	0.0 %
	9		千円	0.0 %
	10		千円	0.0 %
その他	団体（者）	千円	0.0 %	
設立経緯等	（設立）本法人は、「かいじ国体」（昭和61年10月）で整備した馬術競技用施設を管理運営し、これを有効活用して事業を実施する法人として、県・小淵沢町・馬術連盟の出捐により設立。 （目的）馬術技術の普及奨励と優良乗用馬の育成供給等を行い、もって畜産の振興に寄与すること。 （経緯概況等）国体終了後も県の馬事振興を図る拠点とし、各種大会の開催、研修会開催等により馬術普及に貢献している。			

【主要事業の概要】

事業名	内容	事業費（単位：千円）		
		H16年度	H17年度	H18年度
事業1	馬事技術普及奨励事業 各種大会・合宿の受け入れ、施設の利用を通して馬事普及を図った。県有競技馬を中心とした調教技術の向上に努め選手強化の実績を挙げた。	69,408	78,240	84,889
事業2	優良乗用馬育成供給事業 優秀馬の繁殖事業に伴う生産育成による乗用馬と競走転用馬の再調教を施し広く乗馬関係者に供給した。	16,924	17,159	12,660
事業3	その他法人の目的を達成するために必要な事業 地域と連携しホーストレッキング大会やホースショー及び小中学生の体験乗馬等の開催を支援し、地域スポーツ文化及び馬事振興発展に協力した。	0	137	2,101

【組織】

年度	平成17年度					平成18年度					平成19年度							
	職員	プロパー	派遣・兼務	県職員	県OB	その他	職員	プロパー	派遣・兼務	県職員	県OB	その他	職員	プロパー	派遣・兼務	県職員	県OB	その他
4月1日現在の人員																		
役員	理事（常勤）	1			1		1			1		0						
	理事（非常勤）	12		5		7	11		5		6	12		5		7		
	監事（常勤）	0					0					0						
	監事（非常勤）	2		1		1	2		1		1	2		1		1		
	評議員	0					0					0						
	計	15	0	6	1	8	14	0	6	1	7	14	0	6	0	8		
職員	管理職	2	2				2	2				2	1			1		
	一般職員	2	2				2	2				3	3			0		
	臨時職員	6	6				6	6				4	4					
	非常勤職員	0					0					0						
	計	10	10	0	0	0	10	10	0	0	0	9	8	0	1	0		
プロパー職員の年齢構成（H20. 4. 1現在）	年齢	～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61歳以上	合計				平均年齢	平均年収					
	男性			3		1		4	役員			(千円)						
	女性							0	常勤			(千円)						
	合計	0	0	3	0	1	0	4	職員	40		4,677						

【経営の状況】

(単位:千円)

項 目		16年度	17年度	18年度	増減(18-17)
収支状況	基本財産運用収入	0	0		△ 0
	会費収入				0
	寄付金収入				0
	受託事業収入	62,381	69,618	53,913	△ 15,705
	自主事業収入	27,231	20,918	25,082	4,164
	補助金収入	21,913	13,913	12,598	△ 1,315
	その他の収入	7,376	9,712	33,726	24,014
	当期収入計①	118,901	114,161	125,319	11,158
	前期繰越収支差額	6,619	3,803	3,996	193
	収入計②	125,520	117,964	129,315	11,351
	人件費	36,209	38,715	41,898	3,183
	その他の支出	85,508	75,253	83,251	7,998
	当期支出計③	121,717	113,968	125,149	11,181
	当期収支差額①-③	△ 2,816	193	170	△ 23
次期繰越収支差額②-③	3,803	3,996	4,166	170	

(単位:千円)

項 目		16年度	17年度	18年度	増減(18-17)
財務状況	流動資産	47,093	52,372	58,272	5,900
	固定資産	332,591	312,323	73,388	△ 238,935
	資産計	379,684	364,695	131,660	△ 233,035
	流動負債	5,000	5,886	15,710	9,824
	うち短期借入金				0
	固定負債	14,675	17,704	13,794	△ 3,910
	うち長期借入金				0
	負債計	19,675	23,590	29,504	5,914
	正味財産	360,009	341,105	102,156	△ 238,949
	うち基本財産等	1,000	1,000	1,000	0
	うち基本財産以外の正味財産	359,009	340,105	101,156	△ 238,949
うち当期正味財産増減額	866	△ 18,904	152	19,056	
その他積立金等	358,143	359,009	101,004	△ 258,005	

(単位:千円)

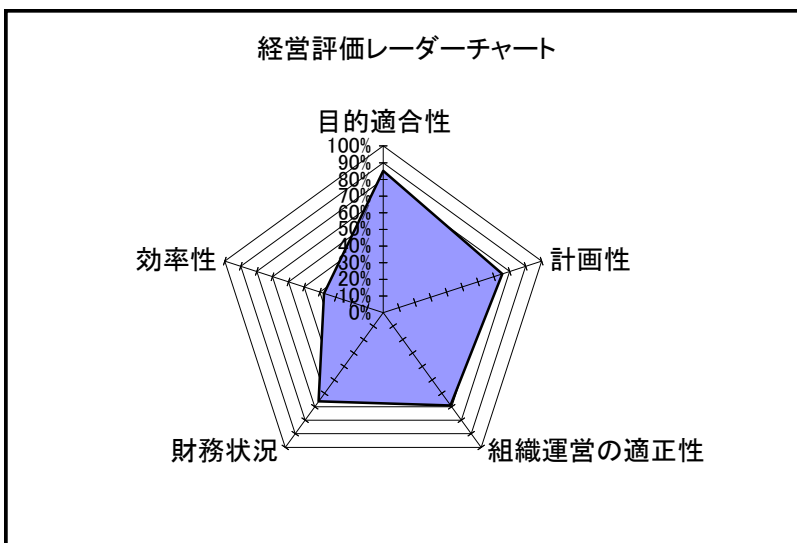
項 目		16年度	17年度	18年度	増減(18-17)
県の財政的関与の状況	負担金				0
	人件費(派遣法)補助金				0
	人件費(派遣法以外)補助金	6,078	6,074	7,493	1,419
	人件費以外の補助金	4,614	3,666	4,170	504
	運営費補助金	10,692	9,740	11,663	1,923
	事業費補助金	11,221	1,673	935	△ 738
	補助金計	21,913	11,413	12,598	1,185
	人件費(派遣法)委託金				0
	人件費(派遣法以外)委託金	19,345	19,385	18,421	△ 964
	人件費以外の委託金	8,928	9,066	6,913	△ 2,153
	委託金計	28,273	28,451	25,334	△ 3,117
	県支出金計	50,186	39,864	37,932	△ 1,932
	県の財政的関与の割合(%)	42.2	34.9	30.3	△ 5
	県貸付金残高				0
県債務負担実際残高				0	

【県の財政的関与の内容・目的】

項目	内容・目的
補助金(運営費)	山梨県馬術競技場の管理運営を行うために要する経費。
補助金(事業費)	山梨県馬術競技場の施設整備を行うために要する経費。
委託金	県有競技用馬の能力を効果的に発揮させるため、飼育管理業務に係る委託経費。
債務負担行為	

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	5	20	17	85.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	5	20	15	75.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	4	16	11	68.8%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	11	44	29	65.9%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	8	32	12	37.5%
合計		33	132	84	63.6%



【警戒指標】

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	当初の設立目的に適合した業務を行っており、事業は、地域の活性化等に十分な成果をあげているが、各年度ごとに具体的な数値目標を定め経営努力していく必要がある。
計画性	中長期的計画及び年次事業計画を策定し、計画と実績の差異分析も行っていることから、計画性は概ね良好である。
組織運営の適正性	組織の人員構成・業務チェック機能は概ね良好である。
財務状況	借入金はなく、補助金収入依存度も減少傾向にあることから、経営は概ね良好である。
効率性	施設の有効利用を図りながら、必要最低限の人数で事業収入を上げる努力をしており、効率性向上に向け無駄な支出を減らす等、管理費の削減が課題である。
総合的評価	施設を有効に活用しながら馬事技術の普及奨励等を行っていくため、馬術競技大会等の開催により成果を上げた。財務状況も県からの支援の縮減を図るべく努力し、平均得点の評価を得た。しかし、効率性の評価は低く、管理費の削減工夫に課題がある。



対応策	総合評価における効率性向上に向けて、管理費の削減工夫をしながら、事業収益の確保を図っていく事が対応策である。その為に、必要最低限の現在の職員で合理的・効率的な運営を行うことが重要である。
-----	---

【法人担当部局の所見】:(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	法人の設立目的を達成すべく、馬術大会開催や合宿の誘致等の経営努力により、地元北杜市はもとより山梨県の馬術競技の拠点となり、国内屈指の競技場としての評価も得るなど、その目的に適合している。一方で、年度ごとの具体的な目標値を設定し目標達成度を測るなどより効果的な経営努力が必要である。
計画性	事業運営合理化計画を策定し、それに基づき各年度の具体的な事業計画を定め経営活動を行い、また事業ごとに計画・実績の差異分析を行うことにより改善策を講じていることなど評価できる。また、新たに経営計画を策定し、コスト分析等の経営手法を取り入れることも必要である。
組織運営の適正性	プロパー職員4名という必要最少限の職員数で業務を行っており、業務課・総務課の2課体制は組織体制という点では合理的であると思われる。また、財務状況をHPで情報公開するなど財務内容の透明化を図っている。職員の評価制度の検討等、所管課からも引き続き指導を行う。
財務状況	県からの財政支援の縮減を念頭におき、自主的な収入増を図ろうとする姿勢が認められ、実績にも反映されつつある。県からの支援が縮減される中、今後の効率的な施設整備と必要な財源の計画的な確保を図り、健全な財政運営に努める必要がある。
効率性	既存事業の充実や新たな事業の企画など施設の有効活用を図ることで収入を確保するとともに、徹底した経費の削減を行うなど合理的な経営努力が必要である。
総合的評価	概ね適正な法人運営がなされており、設立目的に適合した業務運営、地域の活性化への貢献などは十分に評価できる。今後は、経営計画に基づき、年度ごとの経営分析等を実施し、また、既存事業の拡充や新規事業への取組などにより事業収益を向上させ、県からの財政支援に頼らない自立的な経営を図っていく必要がある。

【総合評価】:(経営評価委員会、経営評価アドバイザーによる総合評価)

今後更なる改善、見直しを行うべき視点	
総合的所見	
※ランク下の%は得点率による概ねの目安があるが、総合的に評価するたため、必ずしも一致しない	<p>・「昭和61年かいじ国体」で整備した馬術競技用施設を管理運営し、馬術技術普及奨励と優良乗用馬育成供給事業を主な事業としている。法人運営を県補助金・委託金に依存してきたため、経済性や効率性を重視する経営方針に欠け、効率性の評価が他法人と比較しても、極めて低く、全体的な評価を下げる要因となっている。</p> <p>・しかし、出資法人改革推進プランにおいて、県支出金に依存した経営体質の抜本的見直しを指摘され、平成18年度に経営計画を策定し、改革に着手している。</p> <p>・今後は、経営計画に基づき、計画と実績の乖離分析、効果検証等を定期的実施し、サービスの向上とコスト縮減に向けた不断の改革を実施することが必須である。また、それに併せ職員の意識改革にも努め、最少コストで最大サービスの提供を追求する組織体制の確立に向け努力する必要がある。</p>



【総合所見等に対する今後の対応方針】

<ul style="list-style-type: none"> ・経営計画を着実に推進し、経営方針・経営目標に基づいた実績の把握と効果検証等を四半期毎に行う。 ・研修等により職員の意識改革や事業企画力の向上を図る。 ・運営費等の見直しを行い、コストの縮減を進めるとともに、利用者ニーズに応えられるよう、利便性の向上を図る。 ・スポーツ振興の観点から、地域と連携したイベントの開催など新たな事業にも積極的に取組むことにより増収を図り、法人の自立性を高める。
--